



急性・重症患者 認定専門看護師

小林 圭子

突然あるいは急激に重篤な状態や生命の危機的状態に陥られた患者さんは、見慣れないたきんの器械や、多くは初めて会う医師や看護師などに囲まれ、体調の優れない中で治療を受けられ、それほど心細く不安な気持ちで闘病されていらっしゃるのでしょうか。また、患者さんと向き合っている代わりに病状について理解したり、治療を選択しながら患者さんを支えるご家族も大変なご負担を感じていらっしゃるかもしれません。私は、急性・重症患者看護専門看護師として、こうした患者さんやご家族に少しでも良いケアをご提供するために、医師・看護師をはじめとする多職種医療福祉専門職と協力して、様々な問題の解決に取り組んでいます。患者さんやご家族が病状について理解され、それをもとによく考え、納得して治療を選択していただけるよう、分かりやすくご説明するなどのお手伝いをしています。患者さんやご家族が、医療者とお互いによく理解し合い、チームの一員と感じられるよう、そして希望されるゴールにチーム全体が向かえるよう、お手伝いをさせていただきます。

インフォメーション

がん患者・家族交流会

場所：武蔵野赤十字病院 時間：午後2時～4時
問合せ先：がん相談支援センター 0422-32-3111 内線 7206

開催日	テーマ	講師	講師
10月12日	大腸がんについて	外科部長	高杉 健之
11月17日	がんの痛みについて	緩和ケア看護認定看護師	中田 幸砂子
12月12日	乳がんについて	乳腺科部長	佐田 美
1月19日	がん治療の予後とケア	がん看護認定看護師	西条 圭子
2月17日	がん化学療法について	血液腫瘍内科部長	中根 美



お答えします No. 9

Q：病院で取り組んでいるエコがありますか。

A：施設では平成19年度から「エコプロダクト」を全ち上げエネルギー使用量の削減や物品のリユース、資源物やペットボトルキャップの回収、商業ビルの廃棄物に取り組んでまいりました。



よけて、自然素材のカーマとヘナマで建てました。

3月25日に16センチ610の雪が降ったこと、みごころを伸ばし3月末には30センチの実を収穫することができました。すくすくと育つ葉の姿を目にされた患者さまから、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。



4月25日 4月の成長！
平成24年度の自然栽培活動の様子。お褒めの言葉をいただきました。



2010年 秋

季刊 情報誌



No.26

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
発行 総務課 広報係

Eye
Eyeわさしのは患者さま向けの情報誌です
ご自由にお持ちください



「おはようございます」との職員の声のおかげに「やっとなんてで笑顔できるようになったよ」と笑顔の笑顔で迎える患者さん

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核施設としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療連携・行波と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を英語できる職場をつくる

ホームドクターをおもちですか

二人主治医制と連携バス

院長 富田博樹

皆様は『二人主治医制』という言葉をお聞きになったことはありませんか？これは『彼様のかかりつけ医（ホームドクター）と病院の医師が共にあなたの主治医になります』ということです。これは我が国が長寿大国となり、複数の病気を持ったご高齢の方々の数が増えてきたことに関連があります。たとえばあなたが高血圧と糖尿病でお近くのホームドクターに長年診ていただいているとします。がん検診の結果、あるがんが見つかり、あなたのホームドクターが武蔵野赤十字病院の外科



に紹介して下さり、入院して無事に手術が終わり、退院となりました。その後当院の外科外来に通院しますが、がんのための当院外科への通院と、高血圧や糖尿病のためのホームドクターへの通院が重なってしまいます。血液検査なども重なってしまうことがあるでしょう。お薬も気をつけないと重なってしまうことがあるかもしれません。その際、当院の外科から『がん連携バス』があなたに渡されますので、それをホームドクターに見せて下さい。そこにはあなたのがんについての情報が書かれており、ホームドクターはあなたのがんについての治療内容と、今後注意すべき事を理解され、さらにおこなっていただきたい検査（主に血液検査）がその時期と共に書かれています。そして武蔵野赤十字病院外科にいつ受診すべきか指示があります。それに応じてホームドクターがその時期に合わせて紹介してくれます。連携バスには数年にわたるこの計画が載せられています。このようにホームドクターと武蔵野赤十字病院の医師が一緒にあなたを診て頂くことを『二人主治医制』と呼びます。がん治療の進歩と共に複数のがんを治療し克服される方も多くなってきました。特にご高齢の方々にこの傾向が見られます。その際には、それぞれの当院がん専門医があなたのホームドクターと共に『二人主治医制』として、あなたを診て頂くことになります。このようにしてあなたは『連携バスのネットワーク』のなかで守られてゆきます。このシステムは東京全体に整備されるはじめてです。

当院ではがん（乳房、肺、胃、大腸、肝臓、前立腺）と肝炎、脳卒中、大腸骨骨折などの連携バスが使用されています。『ホームドクターと病院が協力して市民の皆様健康と命を守る』ことが、これからの安心した医療のために大切なことです。あなたのホームドクターは、あなたのホームグラウンドをまもるゴールキーパーの役割を果たして下さい。まだホームドクターをお持ちでない方は是非ホームドクターを持たれることをお勧めいたします。



防災訓練がありました!

医療社会事業課



8月22日(日)平成22年度武蔵野市総合防災訓練が実施されました。武蔵野市内において震度6弱の地震が発生したとの想定のもと、当院から医療救護班が出動し、近隣の武蔵境病院において、避難所等



から搬送された傷病者の受け入れやトリアージ、応急手当など武蔵境病院の職員と共に本番さながらの訓練となりました。

メイン会場の武蔵野市立第二小学校、第2しらがわ公園では当院救急車による傷病者の後方搬送訓練、消防隊員と当院医師、看護師が共同で救護活動にあたるDMAT訓練も行われました。

また、今回から介護支援センターの職員も参加して地域のお年寄りなど要援護者を把握し、援助する災害時要援護者支援訓練も行われました。

そのほか、赤十字救急法指導員による応急救護指導訓練も行われ、地域の皆さんとの相互連携を深めるとともに、防災意識と行動力の向上を図ることができました。

インドネシア赤十字社ボゴール病院保健医療支援事業に参加して

薬剤師 原田 真理



日本赤十字社はボゴール病院の医療サービス向上のため、医療資機材の支援と医療従事者の派遣を継続的に行っています。私はこの事業で3ヵ月間インドネシアに派遣されました。まず現地の医療状況の把握とスタッフと信頼関係を築くことに努め、その中で見てきた現地の人が改善を望んでいる事や困っている事に知り組みました。

病棟業務・抗がん剤混合注射・栄養療法・災害救護など様々な分野に介入し、薬剤師のみならず他職種へ助言や指導を行いました。混合注射の手法を教えられた時の熱心に取り組む薬剤師の姿が印象的でした。この派遣を通して改めて人との繋がりがコミュニケーションは大変大切だと感じました。

自分で情報収集・立案・計画を立てて行いましたが、温かい人々と出会いそして協力と理解が得られたからこそ思い活動ができたのだと思います。出会った人全てに感謝です。

これからもボゴール病院の医療サービス向上とインドネシアの人々の幸せを願っています。

